

令和6年度第5回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和7年2月3日(月) 午後2時45分～午後4時20分

2 場所 秋田市役所5階 正庁

3 出席者

(1) 委員(13人)

奥山順子会長、水澤聡副会長、西村吉隆委員、佐々木亮次委員、上村清正委員、塩谷正文委員、南野久男委員、鶴田悦子委員、柴田和孝委員、工藤浩一委員、宮城智恵子委員、山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

吉田子ども総務課長、松橋子ども育成課長、石川子ども福祉課長、清水子ども健康課長、加藤子育て相談支援課長、山田企業立地雇用課長、ほか関係職員

4 傍聴者 なし

5 会議の内容

○ 開 会

○ 議 事

(1) 「(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プラン」(最終案)について

(2) その他

○ そ の 他

○ 閉 会

6 議事要旨

奥山会長	議事(1)「(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プラン」(最終案)について、事務局より説明を求める。
	<事務局説明 (資料1)>
奥山会長	ただ今の説明に対し、質問や意見はあるか。
水澤副会長	秋田市教育ビジョンが計画の位置づけにない。全てのこどもという割に、教育だけが抜けているように思う。国や県も縦割りの傾向

	<p>があつて難しいと思うが、こどもの成長を見守るという意味で、教育の面も位置づけるべきではないか。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>本プランは幼保の要素が多いこともあり、教育ビジョンとの繋がり の明記が難しいが、小中高生を対象とする内容もあることから、 しっかり連携していく。また、今後策定を予定しているこども計画 においては、より一層教育委員会との協力が必要と考えている。</p>
水澤副会長	<p>こども家庭庁と文部科学省の縦割りの話もあるが、現場レベルで しっかり連携していただきたい。</p> <p>また、資料1の8番で、保育士の離職率等はこの指標にはなじま ないとの回答だが、重要なポイントだと思う。一方で同資料の15 番では処遇改善につながるようなことも回答している。処遇改善は 国の制度だが、市としての前向きな姿勢を表しても良いのでは。</p>
奥山会長	<p>重要な課題である。賃金を何%改善すると言われても、母数にな る数値が低いため、実際の保育者の実感としては改善されていな い。保育者の確保が難しいと保育現場が疲弊する。</p>
上村委員	<p>前年度比10.7%程度増の公定価格の人件費分改定とあるが、 上げてても今の平均賃金に追いつかないのが現状で、数字だけが一人 走りして、現場の先生たちは疲弊している。</p> <p>こどもの数が減り、保育者の人数も長い目で見れば少なくなるの かもしれないが、今生きている就学前のこどもたちの育ちは今しか ないので、今のこどもたちのための市の対応が、プランの中で見え てくるといいのでは。</p>
渡辺委員	<p>保育士は加算等で改善はされてきたが、他の産業の賃上げと比べ ると比較にならず遅れていると思う。施設への給付制度もこどもの 数に応じたものであることから、こどもの数が減っている中で、経 営側としては厳しい状況にある。</p> <p>また、保育士や幼稚園教諭の仕事は給料が低く大変だという認識 が、保育者を目指す学生の親にまで広まっている。人材の確保のため、 制度に限らず、日頃からの啓蒙が必要だと思う。</p>
奥山会長	<p>学生の保護者の中には、保育士のネガティブなニュースがたくさん 流れたことで希望が持てる職業じゃないと反対される方もいれ ば、保育者になるまでの教育への投資に比べ就職後に得る賃金があ まりにも低すぎるという声もある。</p>

	<p>秋田県は県内の養成校も限られていて、学生数も減っており、秋田で保育者になろうという人たちが希望を持って取り組んでいけるようにサポートする体制が必要である。もちろん処遇にも関心を持ち、国の動向もあるかもしれないが、秋田市で保育をする人たちを支えていくということを、どこかで示せないか。</p>
事務局（子ども育成課長）	<p>保育士の賃金は国の公定価格がベースになっているが、引き上げ改定が続いていることから、市としては、改定による増加分が職員に適切に支給されるよう、施設に助言や指導等をしていく。</p> <p>保育士不足については、保育士・保育所支援センターを子ども育成課内に設け、潜在保育士の就職相談やフォローを行っているほか、保育士になるために奨学金を借りた方に、一定の条件のもと返還金を助成するなど、支援をしているところである。</p> <p>こどもの数が減っている一方で、現場では保育士の確保が難しい状況を見据えながら支援方法を検討していきたい。</p>
事務局（企業立地雇用課長）	<p>保育士に特化した事業ではないが、当課ではアンダー40正社員化促進事業を実施しており、40歳未満の非正規社員を正社員に転換した市内企業に対し、1人当たり年額20万円を助成している。平成28年から通算2千人を超える正規雇用を生み出しており、保育所関連の事業者からの申請も多い。賃金の一助に活用できる制度もあるということで、ご説明したところである。</p>
奥山会長	<p>こうした制度も周知され、対象となる方が適切に利用していけたら良いと思う。</p> <p>全国的に、小学校の先生もなり手が不足している。小学校の支援員をした方が収入が多いと言うことで、保育の資格を持っている人が小学校に流れているということもあり、楽観できる状況ではないということも踏まえ、実態を捉えていってほしい。</p>
山崎委員	<p>資料2の2ページ、父親の育児参加と参画どちらが適しているかという件について、参画でも参加でも、父親の主体性でもないのではと思う。共に育てるという意味の「共育て」という言葉も浸透している。</p>
奥山会長	<p>父親の育児参加という言葉に対しては、以前から疑問を持っていた。参画という言葉を使ったときに、一般の方がどう受け取るかという、参加と大して変わらないのでは。「父親の主体的な子育てへの関わり」や「共育て」は関係者はよく知っている言葉だが、一</p>

	<p>般的にはどうか。保育の場に直接関わらない委員からも客観的な意見をいただきたい。</p>
水澤副会長	<p>参加も参画も主体がほかにあって、そこに加わっていくという意味なので、主体的に取り組むという意味合いを持たせるのであれば、先ほどの「共育て」などの言葉の方が、文章の中でどう落とし込むか分からないが、より前向きな内容になると思う。</p> <p>国が参画という言葉を使っているとしても気にせず、現場でやりやすいように作って良いのではないか。</p>
柴田委員	<p>体感としては、男性も子育てを一緒にやっている方が多いと思う。シングルも多いし、男性と女性で考えるのは違和感を感じる。どこに向けたメッセージのなのかわかりづらい。</p>
奥山会長	<p>世代でも状況が違い、最近のお父さんたちを見ていると、ずいぶん変わったと実感している。ただ調査を見ると、本当に大変なところは母親にかかっているとか、こどもが具合が悪いときに仕事を休んで駆けつけるのは母親が多いということもあり、全て解消されたわけではないと感じるが、大事な視点だと思う。</p>
佐々木委員	<p>参加も参画も変わらないという意見に同意する。母親の役割が大きいのは確かで、それを父親がカバーしたり、1人に任せず一緒に育てていくというのが大事なイメージでは。臨床の現場でも、父親のサポートがあるかないかで、母親の状況がずいぶん違う。ただ参加するのではなく、家事や育児を含めた生活を二人でやっていくという、広いイメージがあると思う。</p>
奥山会長	<p>父親も母親も育児の主体者であるという意味合いが伝われば良いと思うが、事務局としてはどうか。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>参加、参画の言葉は使わない方向で、父親と母親がいる場合は、二人で育児に関わっていくという意味合いが伝わる表現とする。表現が決まった際には、何らかの方法で委員に連絡する。</p>
水澤副会長	<p>本プランの推進にあたり、アウトリーチ的な取組はあるのか。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>具体的な取組についてはこの場で出せないが、プラン策定後、アウトリーチの視点も持って、進行の管理を行っていききたい。</p>

奥山会長	資料1の27番、不登校に関することについて、こども大綱の中ではアウトリーチの強化が出されており、アウトリーチには、当事者の側になって考えるということでもあると思う。「問題があるのはこどもでそれを大人が解決してあげる」というスタンスではなく、こどもの立場に立って考えるという姿勢を、全体を通して貫いていただきたい。
水澤副会長	今回、教育委員会からの出席者はいないようだが、教育委員会が関わる場所については、より丁寧にディスカッションをして方向性を合わせていってほしい。
奥山会長	現場でも連携を取ってと盛んに言われているため、現場だけではないところの連携を強化していってほしい。
鶴田委員	不登校の問題は秋田でも増えてきている。こどもまんなかということは、こどもが選ぶことができることだと思う。不登校に対しては「すくうるみらい」を主としているようだが、他のフリースクールを選びたい場合についてはどうするのかと思う。
奥山会長	こどもが選択肢を持っているんだという視点はとても大事だと思う。私たちもそういう視点で見ていきたい。
西村委員	資料3、12ページのニーズ調査の結果について、育児休業を取得していない理由で、職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった、職場に制度がなかったとの回答がある。これらに対しワーク・ライフ・バランスの広報啓発等で対応して行くのだと思うが、関連する目標指標として「育児休業の取得率」が挙げられている。2025年度の政府目標が50%、2030年度に85%となっていたはずだが、その整合はどのようになっているのか。
事務局（企業立地雇用課長）	令和11年度までの指標のため、割り返して設定したものである。制度を有効に活用するよう、今後も周知啓発に取り組んで行く。
西村委員	労働局でも育児介護休業法の改正などについて周知啓発を行っており、利用できる助成制度も併せて伝えていくため、連携して対応していきたい。
山崎委員	資料3、2ページの計画の対象について、若者については「結婚

	<p>や子育てを希望する若い世代」と特定しているが、これでよいか。また、15ページにこども誰でも通園制度が掲載されているが、31ページの取組事業では抜けているため、整合を取る必要があるのでは。全体の体裁について、行の高さが違う箇所や長音が文頭に表示されている箇所があるため、必要に応じて修正してはどうか。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>計画の対象について、一般的な若者はひらがな表記の「こども」に含んでいるものとしている。また、こども誰でも通園制度については予算化された段階で掲載する予定だったものである。全体的な体裁に関しては再度見直して、見やすくなるよう修正する。</p>
工藤委員	<p>資料3、2ページの計画の目的が修正されたとのことだが、13ページの基本理念の冒頭の部分は修正前の文言が掲載されており、合わせるべきではないか。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>修正する。 ≪※指摘のあった点については、これまでの第3次プランにおける目的の部分であり、修正は行わないこととした。≫</p>
上村委員	<p>今回のプランの中で、学校教育課と子ども育成課が連名となっている事業があるが、その場合の事業目標や概要に、「就学前施設と連携小学校が連携した計画の作成について進める」といった文言を入れることはできないか。市が連携を進めるという意味表示につながるのでは。</p>
奥山会長	<p>明治9年に日本で初めての幼稚園ができた頃から、小学校との繋がりや連携、接続の問題はずっと指摘されてきている。秋田市は1小学校区に複数の保育施設があることから、県内全体でも一番困難だと思う。国も動き始めたこの時期に、一歩進めるようバックアップしていただきたい。</p>
事務局（子ども育成課長）	<p>架け橋プログラムについては、子ども育成課と学校教育課の担当者間の話し合いに着手したところであり、今回のプランに記載することは難しいが、今後お知らせできる状況になったら教育保育施設の皆様へ説明させていただきたい。</p>
渡辺委員	<p>現在も幼児教育センターに代わる組織はあるが、センターに昇格してほしい。また、幼保小の架け橋プログラムをやるという一文を、プランに間に合わなくても何かに追加してほしい。それだけで</p>

	も施設として動きやすくなる。
奥山会長	単発の事業で何かを実施することではなく、子どもたちの途切れない連続した育ちを支えていくことが目的である。不登校にも関連することだと思うが、そこは貫いてほしい。
事務局（子ども育成課長）	幼児教育センターについては今後の課題とする。幼保小架け橋プログラムについては、今後話し合いが進み明確な方向性が出た時点で、一文を加えるなどについて検討していきたいが、着手した段階なので、時間をいただきたい。
渡辺委員	障がい児保育事業に関連し、今盛んに言われているインクルーシブ教育の実現に当たっては、職員配置や保護者の理解など、運営に当たって現場は困難な状況にある。補助を出すだけでなく、具体的な対策を打ち出してほしい。
事務局（子ども育成課長）	障がい児保育については、確かに補助金を出すだけでなく、保護者の理解など、動きが難しい部分だと認識している。インクルーシブと言われている中で、現場がうまく動けるような形を、今後の課題として検討していきたい。
奥山会長	保育はそもそもが、一人ひとりの特性に応じることが基本だということをお大事にして、多様な子どもが共に暮らせるような保育が保障できるよう、様々な条件整備を引き続き考えていただきたい。 ほかに質問や意見はあるか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	それでは、(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プランは、一部修正し、最終案のとおりとしてよいか。
	<異議無し>
奥山会長	それでは、議案(1)は終了とする。 議案(2)その他ということで、事務局から何かあるか。
事務局（子ども総務課職員）	<策定までの今後のスケジュールについて説明>

奥山会長	ほかに質問や意見はあるか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	これをもって議事を終了する。